



長い夏休みが終わり、新学期がスタートしました。暑さによる疲れが残しやすい時期でもあります。栄養バランスのよい食事と十分な睡眠を心がけ、給食を通して健康な体づくりを進めていきましょう。

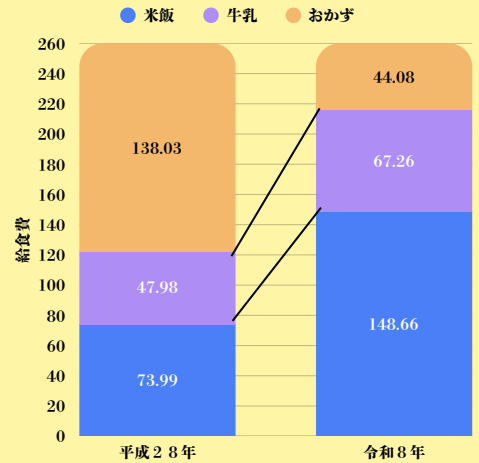
主食・牛乳の食材料費は増加しているが

給食費は増額していない現実

近年、食材価格の高騰が続いており、特に主食（ごはん・パン）や牛乳の価格は大きく上昇しています。しかし、給食費は増額されておらず、限られた予算の中で給食を提供しています。

平成28年度から令和8年度までの10年間を比較すると、主食と牛乳にかかる費用は大幅に増加しています。一方で、給食費は据え置かれているため、その分、おかず等に充てることのできる金額は減少しています。その結果、現在の給食費では、おかず代として約44円分しか使うことができない状況です。

給食費に占める主食・牛乳・おかずの割合



給食費の負担軽減における東海村の支援として、給食費の公費負担をしています。

公費負担分

(米・一部食材料費)

食材料費
上昇分

保護者負担

(月額4600円)
(日額260円)

村では、保護者の負担軽減対策として、学校給食費の一部を負担しています。

施策1：地産地消の観点から、東海村産の精米の購入費用を村が負担します。

施策2：昨今の物価高騰により、給食の食材費用についても高騰が続いていることから、材料費の一部を村が負担します。

給食と残食と好き嫌い



上記とおり、近年の物価高騰により、保護者の皆様からご負担いただいている給食費（1食260円）だけでは、十分な給食を提供することが難しい状況となっています。しかし、東海村が不足分を公費で負担しているため、現在は1食あたり約370円（7月の食材料費平均）の給食を提供することができています。

一方で、給食の食べ残しは年々増加しており、7月の平均残食率は約12%でした。本校児童の実際の栄養摂取量を推定エネルギー必要量と比較すると、必要量の約84.5%しか満たせておらず、子どもたちが成長に必要なエネルギーや栄養素を十分に摂取できていないことが分かっています。

学校では、子どもたちが給食をおいしく食べられるよう献立や食育の工夫を行っていますが、好き嫌いや食べ残しを減らすためには、ご家庭との連携も大切です。子どもたちが「一口でも食べてみよう」「苦手なものにも挑戦してみよう」という気持ちを育めるよう、ご家庭でも給食や食事について話題にいただき、食べ物大切に食べる気持ちや、好き嫌いを少しずつ減らしていくことの大切さについてお声かけをお願いいたします。学校と家庭が一緒になって子どもたちの食を支え、健やかな成長につなげていければと考えております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

給食を残す理由は何ですか？

